

<巻頭言>

新年を迎えて

藤井敏夫*

1999年を迎えまして、一言、年頭挨拶を申し上げます。

新年明けまして、おめでとうございます。会員の皆様には、1990年代最終の年を恙なく迎えられましたことと、心からお慶び申し上げます。

内外ともに真に厳しい昨今ではありますが、本会の事業活動はほぼ予定通りに進められてまいりまして、無事に越年することが出来ましたのは、一重に、ご当局のご指導はじめ会員の皆様のお力添えの賜物と、心から深く感謝申し上げますと共に、本年におきましてもまた、倍旧のご指導ご支援を賜りますよう、何とぞ宜しくお願い申し上げます。

新年を迎えての新たな思いは、今までにも増して「平和と安定への渴望」であります。昨年、アジアの隣国同士が核実験を競い合い、唯一の被爆国からの抗議も空しく、遣り場のない集燥感に駆られ、また飛来物が近海を越え国土上空を通過するに至っては、愈々危機感がつのり、さらに年末には湾岸情勢が再び緊迫化するなど、平和への希求は、政治外交への期待を一層強めております。

一方、経済はといえば、一昨年に続く金融機関の大規模な破綻は、信用収縮を激化して倒産や失業率の記録的な増加を来すなど、景気悪循環への懸念は益々深刻の度を増しております。このような戦後最大の危機を克服すべく、参院選後には内閣が改まり、更には公的資金導入等思い切った対策が進められておりますが、先行きなお予断を許さぬ情勢のままに越年となりました。今年こそはと、大きな期待のかかるところであります。

社会面では、スポーツ界始め明るい話題もありましたが、反面、甚だ芳しからぬ報道が相次ぎ暗澹たる思いに明け暮れし、特に「指導者の今昔」にはあらためて考えさせられるところ少なくありません。昨今世の中は不況続きのうえに、目まぐるしい変わりようで、正に国難と言うべき時であります。こうした難局に当たる指導者には、時流の赴くところを的確に読みとり、時代への適合を誤らずまた迎合に溺れず、指導者に不可欠の

* (株)日本大ダム会議 会長

なお、筆者は平成11年1月6日ご逝去されました。ここに慎んでご冥福をお祈り申し上げます。

「徳目」を固く守り抜くことが格別に望まれましょう。そして、このような時にこそ、乱世に合う指導者の出現が待たれ、一刻も早い世直しの実現が待たれていると言えましょう。

最近、大事な場面で屢々気に懸かることがあります。それは公共投資で「従来型の公共事業」という言葉が、指導者層の間でも比較的安易に使われているからであります。成るほど結果的には、過去の事例の一部に検討すべき点が認められたにしても、それを以て、おしなべて従来型と呼び負の評価を与えるとすれば、それは如何にも短絡的に過ぎるではないでしょうか。もとより投資の優先度は、そのような類型化によることなく、透徹した洞察と理に適った吟味が充分に行なわれ、投資効率の即効性は言うに及ばず、いわば国家百年の計に相応しい有効、且つ持続的な投資の遂行が切に望まれるところであります。

因みに、水資源への投資につきましては、勿論、その重要性を強調し過ぎることはありません。資源の少ない我が国では、水は循環型の貴重な資源であり、水を治め水を利することの重要性は、今後とも決して変わることなく、従って、ダム事業の推進が必須の課題であり続けることもまた疑いないところであります。さらに21世紀には、発展途上国の人口増加が水需要を激増させるのは必至でありまして、我が国のダム技術が、水資源開発の国際協力におきましても、一層重要な役割を果たすことは明らかであり、ダム技術者の内外における今後の活躍には、益々大きな期待がかかるものと確信いたしております。

このように、ダム建設はこれからも強力に推進すべき大事な事業であります。新しいダムを建設していく傍ら、既設のダムを、中でも古いダムを「保守改良」していくこともまた、今後一段と重要な課題となってまいります。それは当然ながら、施設の劣化、機能の低下、自然・環境・社会の変化、等への対応といった問題が時の経過と共に顕在化して来るからであります。加えて、ダム技術も日進月歩の向上を遂げているからであります。

国際大ダム会議年次報告(1997)によれば、高さ15mを超える既設のダムは3万5千、うち日本は2.5千に達しておりますが、時あたかも昨年ニューデリーの年次例会では、シンポジウムの課題に「ダムのリハビリテーション」が挙げられ、各国からは50編近い論報文が提出され、討議されております。この種の問題は、上記の通り「時が経てが物が変わる」以上は、今後とも内外共通の重要な研究課題となりますのは疑いもなく、従って本会におきましては、ダムの建設と共に保守改良に関する諸問題につきましても、一段と技術開発が進められてまいりますよう、年の始めにあらためて念願するものであります。

平成11年の新春を迎えまして、会員の皆様のご健康、ご活躍と、本会の事業活動の一層の強化、充実を心から祈願申し上げまして、年頭挨拶とさせて戴きます。